

第2回 舶用品標準化推進協議会／標準化セミナーの結果概要

1. セミナーの趣旨

舶用品製造業者における標準化活動を推進するため、異業種間における標準化に関わる認識等について相互理解の促進を図り、今後の当該協議会の活動に繋げることを目的として、第2回舶用品標準化推進協議会／標準化セミナーを開催した。

2. 開催

日時： 2008年9月26日（金）13:30～17:00

場所： 大阪第一ホテル モナーク 大阪市北区梅田 1-9-20

出席者数： 59名



藤山 協議会長



矢萩 船技協常務理事

3. プログラム

テーマ1. 基準認証政策の現状と課題

（国際標準化目標と人材育成政策）

森野 芳通 氏

経済産業省 産業技術環境局 産業基盤標準化推進室



テーマ2. “ゴム関連の国際標準化（ISO/TC45）活動”

（最近のゴム産業全般、標準化活動、ISO/TC45 国内、海外組織、規格活動例など）

今井 勇 氏 日本ゴム工業会 ISO/TC45（ゴム及び製品）

国内審議委員長

株式会社ブリヂストン 技術センター



テーマ3. 当協会に於ける標準化活動の現状

（活動の概要と主要課題 ISO 30006、ISO 30007 などの取り組み）

平原 祐 財団法人 船舶技術研究協会 基準・規格グループ長



テーマ4. 船用弁の標準化活動について

（標準化活動の取り組みと国内規格（JIS F）の現状と今後）

坂中 清治 氏 財団法人 日本船舶技術研究協会 バルブ及びこし器分科会長

ユニバーサル造船株式会社 津事業所 機関設計室長



テーマ5. IEC/TC18 と ISO/TC8/SC3 における船舶の陸上受電設備の標準化について

(現状と今後の課題)

中村 浩司 氏 財団法人 日本船舶技術研究協会 電気設備分科会長
三井造船株式会社 船舶・艦艇事業本部
基本設計部 部長

小谷 雄二 氏 寺崎電気産業株式会社 システム事業
海洋技術部



テーマ6. 意見交換会

(各社の取り組み、今後の協議会や標準化事業に対する要望等)

4. 質疑応答の概要



問：シップリサイクル新条約においては、タンクなどに残った有害残留物も記録しなければならないのか？

答：記録しなければならないことになる。

問：テーマ3（シップリサイクル）の講演資料のうち、世界の解撤国の年代別推移のデータがあるが、平成2年を境に主要解撤国が変わっている。その理由がわかたら教えてほしい。また、現在の主要解撤国である、中国、インド、パキスタン、バングラディッシュはISOにおけるシップリサイクル審議に関与しているのか。

答：前者の質問（平成2年を境に主要解撤国が変わっている理由）については調査のうち、後日回答したい（理由：国際海運の好調・解撤船舶量の減少・再生鉄の高騰。解撤国から造船国への移行など）。後者の質問（主要解撤国のISO関与）に関し、これらの国はISO審議に積極的に加わっていない。一方、IMOにおける新条約審議では、インド、中国は積極的であり、条約批准が見込まれている。しかし、パキスタン、バングラディッシュは積極的には参画しておらず、新条約に加盟しないかもしれない。日本は同条約に批准予定であり、日本国船籍船は条約加盟の解撤国でしか、解撤することが出来ない予定である。

答：前者の質問に関しては、その国の再生鉄の需要が大きく関連する。「低コスト」「再生鉄の需要」が解撤国の主要なファクターである。日本、韓国が平成2年を境に解撤量がほとんどなくなっているが、その国の経済成長とも関連する話であろう。後者に関しては、ISOにおけるシップリサイクル審議にはアジアから日本、中国、インドなどが参画しているが、日本が主導するISO 30005~30007を除き、欧米諸国が解撤国意見の取り入れなしに審議を進めている現状を日本としては問題と認識している。

問：国の国際標準化取り組み（テーマ 1）に関し、船技協の前身団体の一つである日本船舶標準協会時代から長年 JIS 審議に取り組んできたが、分科会での JIS 作成審議に委員派遣元である各企業経営者の理解が必ずしも十分ではない現状があった。この状況を改善するため、舶用品標準化推進協議会を創設した。講演では国として標準化取り組みへのサポートを挙げられていたが、他分野の JIS 作成で、この協議会のような組織を設置して取り組んでいる業界はあるか。

答：（森野氏としては）船舶の他は、窯業（セラミック）などを担当しているが、このような会に呼ばれたことはない。標準化に取り組む良い例として他分野へ紹介したいと思う。

5. アンケートの主な内容

Question 1. 本日の内容についてご意見、ご感想をお聞かせ下さい

- ・政府の標準化への取り組みがよく理解できた。日本としてはいかに日本標準を国際標準へと進化させることが重要あるかを強く認識した。企業人としてこれからの経営課題の重要テーマとして取り組み、社内標準をグレードアップさせることが大切であると痛感した。
- ・内容も適当であり、講演者の発表も明快であった。経産省・森野専門官の取り組みに今後大きく期待したい。陸上受電設備の標準化のプレゼンターは、動画（ビデオ）の導入で理解が深まった。
- ・標準化推進活動の状況について理解できた。
- ・標準化の動きについて理解できた。
- ・舶用品の各標準化について知らないこともあったが、勉強になった。
- ・基本的な事項が明快に説明されてよかったが、業界全体としては国際標準化への取り組みがまだまだ必要だと感じた。
- ・大変興味深かった。
- ・標準化の意義を再確認した。非常に重要な分野と理解した。
- ・政策及び重要テーマ等がよく理解できた。
- ・国際標準への取り組みの世界の潮流がよくわかり、非常に興味深かった。製品そのものプラス、経営者の視点の重要性、標準化の重要性を理解することができた。
- ・分科会の異なる業種の方のセミナーを聞かせて頂き、自身にとってもいい勉強になった。
- ・初めての参加だったが、舶用品標準化協議会でどの様な取り組みをしているかよくわかった。他業種に関する話も大変参考になった。
- ・他業界の標準化活動の講演が聞いて有意義だった。
- ・異業種での標準化について知ることができ、非常に興味深かった。
- ・船舶以外の分野の標準化の取り組みが説明されて、参考になった。
- ・国際化への対応の重要度を再認識する機会となった。
- ・議題に「シップリサイクル」「インベントリ」「コールドアイアン」というキーワードがあれば更に興味深く聴けた。
- ・ISO 30006/7 の取り組みの説明の中でマネジメントシステム認証目的の ISO 原案作成の動きについての話は興味深かった。
- ・舶用品の JIS-F 規格、陸電設備の ISO・IEC の講義が特に有意義であった。
- ・テーマ 4「舶用弁の標準化活動について」内容と歴史的背景等がとてもわかりやすく、バルブ屋として大変勉強になった。
- ・どのテーマについても詳しい説明を頂き、大変参考になった。特にテーマ 4 については、弊社と直接関わる事でもあり、あらためて歴史から、今後の課題についての詳細を理解できた。
- ・AMP についてまだまだ検討が必要であることがわかった。LR では NOTATION を 2008 に発行している。

Question 2. 今後の舶用品標準化協議会の活動へのご意見、ご要望、ご提案をお聞かせ下さい。

- ・ SOLAS 改正や IEC 改正（防爆 ZONE など）の照会を標準化にからめて標準化のメリットを PR するための事例紹介をもっと増やしてはどうか。ZONE1 での使用が認められるようになった安全防爆機器の我が国メーカーの取り組みは？
- ・ AMP の見学会を実施していただきたい。
- ・ インターネットなどで最新の情報提供が欲しい。
- ・ 航海機器などは国際標準化は避けて通れないものか。
- ・ 現状活動を更にすすめていただきたい。
- ・ 異業種での事例紹介を今後とも続けていただきたい。
- ・ 造船工業の進展のため、戦略的な活動をより一層進めていただきたい。
- ・ 定期的（年 2, 3 回）に勉強会として開催して頂きたい。
- ・ 経営者への参画を要請するニュアンス、技術者への同伴を要請するニュアンスの案内をすれば、今後とも多数の参加が得られるのではないか。
- ・ 業種を少し絞って行ったセミナーがあれば、その業種での深い知識が得られるようなので、機会があれば参加したい。
- ・ 船用メーカーと造船所が共存共栄し、永く良好関係が続くよう、さらなる改善、見直しなどを行っていただけるような活気ある活動となるよう希望する。

Question 3. 今後、舶用品標準化推進協議会／標準化セミナー等の講演会で取り上げてほしいテーマがあれば、お聞かせ下さい。

- ・ タイムリーな話題の提供をお願いしたい。（新エネルギー・省エネ・有害物質規制など/中国の造船事情や韓国の取り組み状況の紹介
- ・ 日本が新規格の主導をとるべき、新技術（開発）製品についての講演会を計画していただきたい。
- ・ 標準化と基準認証の現状と政策（相互認証の推進の現状）
- ・ 標準化活動を積極的に取り組むメーカーの講演
- ・ シップリサイクル条約に関する内容
- ・ 部材、機備部品、素材関連をテーマとした標準化の話が多いが、装置、システム、ソフト等の機能を含めた標準化の現状を知りたい。
- ・ 韓国・中国における舶用品の供給状態、またはその質。→日本の舶用品の品質の高さを比較/→他国の標準化進捗状況等
- ・ バラスト水の処理問題について、最新情報が知りたい。
- ・ 材料（鋼材）やボルトの規格が ISO にあわせて JIS が変わってきている。大企業の取り組み方針は会社によって異なるが、中小企業は大企業に合わせる必要がある。今後の大企業の取り組み方針を知ることのセミナーを希望。
- ・ 第一回で要望があったそうだが、座学方式でなく、見学会があってもよいと思う。
- ・ 鋳物製品の外観に関して JIS 規格の表現がとても抽象的である。例）有害な鋳巣・バリ・引け巣。解釈に差がありすぎる。

Question 4. その他、本会に対するご意見・ご要望などあればお聞かせ下さい。

- ・ 大阪駅前開催ということもあって、便利だった。
- ・ 船舶関係の ISO は船技協（国交省）で、IEC は経済産業省である。船舶関係の IEC の取り組みは経産省のまま取り組むのか
- ・ 日本はシステムの国際標準提案が少ないように思われる。船主・メーカー等の連携による国際標準化への取り組み支援、とりまとめを推進していただきたい。
- ・ もっと若手が参加できるようにしてほしい。なかなかこの業界・業種には若手がいないように思われる。
- ・ 情報の提供をよろしくお願いしたい。
- ・ 日本、中国、韓国等の連携をとって JIS-F を守ってほしい。
- ・ 船用バルブ銘板を製造しているメーカーであるが、JIS-F O104:2008 の情報を造船所の設計にうまく伝える手段はないか
- ・ シップリサイクルについて、具体的に今後くわしく情報をいただきたい。

- ・ JIS-F 規格集の CD だけでなく、旧来の本（紙）の型で発行して欲しい。
- ・ 今回のような大事なセミナーに参加できたことに感謝したい。
- ・ シップリサイクルについて今後、何かの機会に詳細を聞かせてほしい。タンカーに設置する救命艇（救助艇）の小型エンジンにもインベントリの提出が必要なのかを知りたい。
- ・ 今回のような貴重な話が聴けるセミナーがあればまた参加したい。

以 上